

2019年度しあわせ研究

患者と医療従事者のしあわせを
カタチにする病院経営

研究員 宍戸拓人、
酒井美絵子、新津泰昭
上野佐保



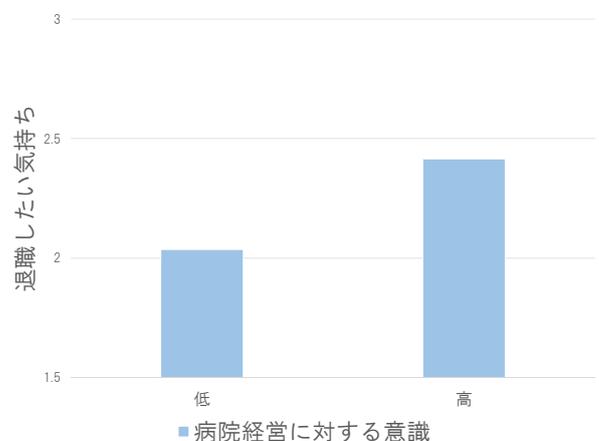
近年、多くの病院において、「病院経営の効率化」と「医療の質の向上」の同時達成が求められています。しかし、経営戦略の研究者である Michael Porter が述べたように、低コスト化とサービス改善の追及は相互に矛盾する施策となる場合が多いため、両者の同時達成は困難な目標なのです。本研究プロジェクトの目的は、一見矛盾する「病院経営の効率化」と「医療の質の向上」を同時に達成できる組織マネジメントのあり方を明らかにすることにあります。

2019年度は、医療従事者の方々の問題意識に基づきアンケートを設計し、1,033名を対象とするインターネット調査を行いました。以下では、その分析結果の一部を紹介したいと思います。

民間企業を対象とする多くの経営学の研究において、現場のことだけではなく、経営全体についても考えられる人材を育てることは好ましいという事実が確認されてきました。実際、医療従事者を対象とする本調査でも、経営について議論できる意識の高い人材の方が、熱意や情熱を持って仕事

に取り組んでいることが確認されました。

しかし、それと同時に、このような意識の高い人材は、病院を辞める可能性が高いことも明らかになりました。以下のグラフは、自分が働く病院の持つ文化や価値観を好ましいと思う人材を対象として分析した結果です。



病院の文化や価値観を大切にしつつ、病院経営に対して高い意識を持つ人材こそ、今後の病院を担っていく人材となるはずです。しかし実際には、グラフが示すように、彼(女)等は病院を辞めたいと思うようになってしまうのです。

では、病院の将来を担う人材に働き続けてもらうためには、何が必要となるのでしょうか。定性的・定量的な調査を通して、これらの問いに答えることによって、患者や医療従事者のしあわせをカタチにするマネジメントのあり方を今後も検討していきたいと考えています。